

1. 保険病名と入院診療病名を分けた
2. それぞれ、レセ電算コードとICD-10で管理を行った
3. 電子カルテの病名 ⇒ レセプトチェッカーの導入
DPCでのレセプト作成
4. 入院診療病名 ⇒ ICD-10での一元管理
がん登録システムへの応用
5. 入院手技分類 ⇒ ICD-9CM
K - Codeのダブル管理
⇒ サマリシステムでの情報共有
DPC請求への応用
がん登録システムへの情報共有

病名の標準化を行うことでこれだけの運用が可能になった。標準化はデータ管理の生命線
巨大システムへの統合ではなく、標準化したデータをキーにした連携が大切

- ・ 滅菌器材のTraceability
バーコードの実質運用
感染への挑戦

患者使用器材シート

定 時

手術室一1



手術日: 2月24日

術式: 開腹直腸切断

000000145

ユニ タロウ

1991年5月10日生

12歳5ヶ月 男

ユニ 太郎 様 (-) HIV C(-)

145.2cm 39.7Kg



ラベル貼付欄:



コード: 040223996010200000050

2004/04/22 気管切開セット



コード: 040223996010200000050

2004/04/22 気管切開セット

リセット



決 定

